

順天堂大学

医療看護学部 第6回 国際交流講演会

ホスピス緩和ケア看護の第一人者に学ぶ

終末期緩和ケアにおける 家族支援の在り方

Experiences of Transition in Families Facing Terminal Illness and Palliative Care

終末期を迎え緩和ケアを受ける子供が死へと向かっていく過程で、
家族はどのような体験をするのか？ 様々なプロジェクトの結果から、
看護師に求められる終末期患者の家族支援の在り方を探る。



Betty Davies

講師 ●ベティ・デイヴィズ Betty Davies, RN, CT, PhD, FAAN
カナダ・ヴィクトリア大学看護大学院教授
米国・カリフォルニア州立大学サンフランシスコ校家族看護学名誉教授
死にゆくこと、死別悲嘆、死に直面した患者とその家族へのケアの在り方
に関する研究で世界的に著名。バンクーバーに北米最初の小児患者の
ための独立型ホスピスの設立に携わった。死・臨終と死別に関する国際
ワークグループ前議長。『死にゆくこと：終末期に直面する家族の移行体
験』、『陽だまりの影：小児期における兄弟との死別経験』など著書多数。

日時：2009年12月7日（月）17時40分～19時30分
（17:40-19:10 講演／19:10-19:30 質疑応答）

場所：本郷キャンパス 有山記念講堂

対象：看護職員、教員、大学院生、学生

*入場は無料です。逐次通訳がつきます。

お問い合わせ ● 浦安キャンパス（片寄） ☎ 047-355-3111

akatayo@juntendo.ac.jp